

# 九州自然歩道を歩く

九州自然歩道は、九州の豊かな自然や文化財を結ぶ歩道です。長崎県ルートのうち、上宇戸を基点に、八天岳と隠居岳まで歩きました。



## 夏 自然と歴史の探索会

上宇戸〜オサイ峠〜八天岳 (4・5キロ)



**オサイ峠へ**  
8月17日、市主催で行われ、約60人が参加しました。里美町の農村公園を10時に出発し、上宇戸バス停前の三差路を左手に進みまし

た。小道を上り始めるとすぐ、講師の大島通寛さんがキブシの実(写真④)を見つけました。青い山ブドウのよ

うな房は、染料の原料となり、昔はオハグロにも使われました。集落の中の緩やかな坂道を進んで行くと、目の前に黄金色の棚田が広がりました。道端にワラビ、ゼンマイが顔を出しています。しばらく歩くと汗ばんできますが、木陰に入るとヒンヤリとします。道を上り切ると、正面に真っ青な水をたたえた池が見えました。江戸末期に灌漑用に造られた郷美



## 秋 森を観察しながら

上宇戸〜隠居岳 (1・1キロ)

9月17日「ふるさと自然の会」の川内野善治さんの案内で、隠居岳へ登りました。上宇戸バス停前の三差路を右手に進むと、隠居岳登山口(写真上)です。山道に入り、まだ若いカシ、シイ類の林の中を、腐葉土を踏みしめながら進みました。辺りには、落ち葉に混じってドングリやクリが落ちていました。

20分程登ると小さな空気に出ました。ここは、標高約500メートル程のところですが、再び林の中に入ると、ヒノキや杉の植林地に変わりました。林の中は、腐葉土も少なく、硬い赤土です。しばらく歩くと、植林地の中に、2次林(一回切った木から萌芽して生える林)が混じり始めました(写真①)。



写真① 杉木立と2次林が混じっている林

さまざまな草木が芽を出して、十分な陽光に恵まれた環境に適應した先駆植物が一斉に芽生えます。これらの植物の種子は、以前から土の中にあつたものもありますが、ギャップが出来てから風や動物によって運ばれたものもあります。その後次第に、先駆植物の密度が高くなると陽樹が育たなくなり、いわゆる「遷移」と呼ばれる植物



写真② ギャップ(すき間) 人巨危バヤの残滅種チヤ家が、(きぐ)カカ生



写真③ 石の多い道



写真④ キブシの実



写真⑤ 郷美谷湿地



写真⑥ 郷美谷池



写真⑦ 郷美谷湿地



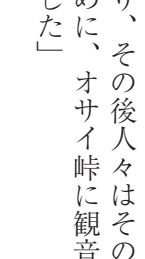
写真⑧ 郷美谷湿地



写真⑨ 郷美谷池



写真⑩ 郷美谷池



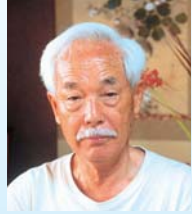
写真⑪ 郷美谷池

谷池です。池の堤防にはスキガ茂り、逆光の中で揺れています。白いサザンカの群生地もあります。郷美谷池の由来を聞いたあと、杉木立の自然道を登りました。薄暗い山道の途中で、小さな湿地(写真⑤)に出ました。小規模の尾瀬のようなところで、たくさん絶滅危惧種が生育しています。足元に気を付けながら進んで行き、再び林の中に入りました。20分程登ると、木々が作る緑のトンネルの前方が明るくなり、広場に着きました。広場の中央にコの字形の石垣に囲まれた、おさい観音堂がありました。

おさい観音にお参りした後、観音様にまつわる話を聞きました。「戦国時代の末、有田唐船城主盛の謀反を知った唐船城主山本右京は、深夜臨月の妻おさいと5歳の勝之助を連れ、西ノ岳(国見山系)を越えて相浦の飯盛城へ向かいました。山を越えたところ、おさいは急に産気づきましたが、運良く村の婦人に助けられ、無事に子を産むことができました。しかし、

## 月に2回は山登り

山歩きは定年退職してから始めました。最初は仲間と一緒にでしたが、みんな体が弱ってしまい、今は一人で登っています。



荒木義房さん (84歳) 探索会参加者

市内や九州各地の山に登ります。花、石、野鳥などを観察しながら歩くのが好きです。以前、スミレの苗を持ち帰り育てましたが、長くはもちませんでした。やはり野山の植物は自然のままが一番です。でも最近

は花の数が随分減ってきています。市などが主催する自然散策会や史跡めぐりには、できるだけ参加することも予備知識と好奇心が必要です。健康の秘けつは摂生することと好きな趣味を持つこと。来年は娘の家族と屋久島に縄文杉を見に行く予定です。

おさい観音にお参りした後、観音様にまつわる話を聞きました。「戦国時代の末、有田唐船城主盛の謀反を知った唐船城主山本右京は、深夜臨月の妻おさいと5歳の勝之助を連れ、西ノ岳(国見山系)を越えて相浦の飯盛城へ向かいました。山を越えたところ、おさいは急に産気づきましたが、運良く村の婦人に助けられ、無事に子を産むことができました。しかし、



写真⑫ アカガシの林で